

# 豊岡新駅設置へ協定

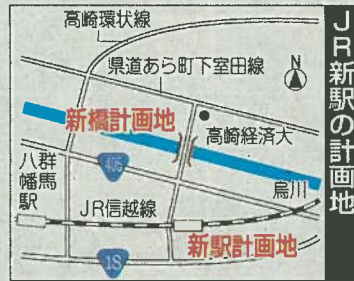
## 高崎市と JR東 概略設計踏まえ可否判断

JR信越線に豊岡新駅

(仮称)の設置を目指す高崎市は15日、JR東日本と概略設計に関する協定を締結した。測量や鉄道設備の規模、配置などの技術的な検討が始まる。概略設計の結果を踏まえ、同社が新駅設置の可否を判断することになるが、市は新駅実現に向けて確実な前進と受け止め、アクセス道路の都市計画決定手続きを急ぐ。

概略設計は市が同社に委託する。設計費用2787万4千円を盛り込んだ本年度一般会計補正予算が市議会9月定例会で可決されている。市は概略設計に約1年かかり、おおむねの建設費用なども明らかにするとみている。

JR新駅の計画地



新駅は北高崎―群馬八幡間の豊岡地区に請願駅として計画。整備費用は基本的に市が負担することになる。

八幡第二工業団地や住宅街に近く、烏川を挟んだ約1.5キロ北に高崎経済大がある。工場従業員や学生らの利用を見込むほか、住民の利便性向上を期待している。2018年度から需要予測などの調査を始め、同社と協議を進めてきた。

市は新駅設置を見据え

烏川を挟んで走る県道あら町下室田線と国道406号、新駅までをつなぐ都市計画道路を整備する予定。烏川に豊岡経大大橋(仮称)を新たに架ける。新駅のアクセス向上や周辺の渋滞緩和にもつながるとして手続きを進めている。都市計画道路はさらに南の国道18号まで整備することも視野に入れている。

富岡賢治市長は「JR東日本が概略設計に着手することが決定して大変喜ばしい。JRが本腰を入れてくれるということ。新駅設置へ向け、大前進だ」と話している。

JR東日本高崎支社は「市が計画している新駅で、

JRとして申し上げる段階ではない。市に協力している立場。引き続き市に協力していきたい」とコメントした。(米原守)